

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名 個別療育センターココスマイル

公表日 令和7年4月30日

利用

児童数 19

回収数14

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	0	0	0	・概ね高評価をいただきました。 ・受付に呼び鈴があると良いのご意見をいただきました。 ・清潔な環境であるのご意見をいただきました。 ・専門職と会う機会はあるかのご意見をいただきました。	環境につきまして、高評価をいただき、ありがとうございます。 ・呼び鈴を置き忘れている場合があったので、適切な場所に置くようにいたします。 ・専門職と会って話をしたい場合は適宜対応しますので申し出ください。
	2	職員の配置数は適切だと思いますか。	14	0	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	0	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。	14	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	0	0	0	・高評価をいただきました。 ・個別支援計画は利用者の様子や保護者のニーズを汲み取っているのご意見をいただきました。 ・都度課題の内容更新があり、楽しそうだとのご意見をいただきました。	適切な支援の提供につきまして、高評価をいただきありがとうございます。引き続き、適切な支援の提供に努めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画（※3）が作成されていると思いますか。	14	0	0	0		
	8	個別支援計画には、児童発達支援ガイドライン・放課後等デイサービスガイドラインの「児童発達支援・放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	0	0	0		
	9	個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	0	0	0		
保護者 への 説明 等	11	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	0	0	0	・概ね高評価をいただきました。 ・保護者座談会の機会を作ってほしいのご意見をいただきました。 ・話しやすく、安心して相談しているのご意見を複数いただきました。	・保護者への説明等につきまして、高評価をいただき、ありがとうございます。 ・令和7年度は、保護者アンケートをもとにテーマを決め、毎月平日と週休日の保護者座談会の年間計画を立て、事前に参加希望を募りました。複数の機会提供をさせていただいております。 ・掲示板では子育て通信やST・OT通信（言語聴覚士・作業療法士）を毎月掲載したり、タイムリーな書籍をご紹介しますしています。ご活用いただければ幸いです。 ・体験者が限定される遊難訓練や、小集団でのイベント活動等、ホームページや掲示板に加え、全利用者の目に触れるよう、LINEでの情報発信をしていく予定です。 ・書類のやり取りやお渡しの時には、お名前等が周囲から見えないように配慮していきます。
	12	「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14	0	0	0		
	13	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング（※5）等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	2	0	1		
	14	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	14	0	0	0		
	15	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	0	0	0		
	16	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	0	0	0		
	17	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。	10	2	0	2		
	18	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	0	0	1		
	19	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	0	0	0		
	20	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	10	1	0	3		
	21	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	0	0	0		

非常時等の対応	22	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	0	1	2	・概ね高評価をいただきました。 ・避難訓練につきましては、来所時に体験していないために「わからない」との回答を多くいただきました。 ・事故発生時の対応については、事故がないため「わからない」というご意見を多数いただきました。	・非常時等の対応につきまして、高評価をいただいております。 ・定期枠でのご利用により避難訓練等は体験者が限られますので、全利用者に情報が行き届くよう、情報発信をしていきます。職員は研修や訓練を受けておりますので、ご安心ください。
	23	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	0	0	6		
	24	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	0	0	2		
	25	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	0	1	4		
満足度	26	こどもは安心感をもって通所していますか。	14	0	0	0	・概ね高評価をいただきました。 ・担当交代について不安があるとのこと意見をいただきました。 ・前日から楽しみにしている、笑顔で通所しているとのこと意見を複数いただきました。	・満足度につきまして、高評価をいただいております。 ・担当交代につきましては、基本的には引継期間を設け、旧担当から新担当に徐々に移行するようにしております。引継シートを使って書面でも引き継いでおります。対人関係構築が課題のお子様も多数ご利用のため、配慮した上での学習の機会と受け止めていただけますと幸いです。 ・事業所全般につきまして、大阪母子保健センター平山哲医師からの外部評価をいただいております。令和7年度も引き続きご快諾いただいております。
	27	こどもは通所を楽しみにしていますか。	13	0	0	1		
	28	事業所の支援に満足していますか。	14	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		公表日 令和7年4月30日				
個別療育センターココスマイル						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・利用調整枠で工夫している。 ・気がついたことは共有し、適宜改善している。 ・構造上音が漏れやすい部屋がある。 ・空間は柔軟に活用している。	・音については、部屋割りや利用枠の調整をしたり、吸音素材のもので防ぐことができるか検討したりする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。	7	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	・PDCAサイクルに則り、毎日の打ち合わせ、週1回／月1回の定期会議や臨時会議を行なっている。ホワイトボードに議題を書き込むようにしている。 ・大阪母子保健センター平山哲医師からの外部評価をいただいている。 ・職員の意識や知識、技術向上のため、研修や事例検討を年間計画に位置付けて実施している。シフト制により現地参加できない場合にも、後日試聴して報告する仕組みを作り、全職員が研修を受ける機会を確保している。	・会議は効率的に進めていく。 ・継続して大阪母子保健センター平山哲医師からの外部評価を依頼していく。 ・研修内容はタイムリーなテーマや最新知見を取り入れ、支援の質の向上を図っていく。 ・全職員の理解をより深めるための事例検討の場を作っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0		

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	・ホームページでの情報提供更新に努めている。 ・個別支援計画は、保護者や利用者と話し合って決めている。 ・日時や担当が固定の利用者ではなく、スポット利用の場合担当者が複数に渡るので、療育内容だけではなくねらいも共有していきたい。 ・個別支援計画の共有はされているので、療育内容について見合える機会があるとよい。 ・フォーマルなアセスメントはファイリングしてあり適宜確認することができる。 ・小集団療育など、事前にプログラム内容の話し合いをしている。 ・報酬改定により、書類や記録の仕事量が増えた。	・心理士部会やST・OT（言語療法士・作業療法士）部会でフォーマルなアセスメントについてのアップデートをしている。 ・全職員でインフォーマルアセスメントについてのアップデートをしていく。 ・個別支援計画更新期日を意識し、計画的に進めていくことができるよう、スケジュール確認を全体で行なっていく。 ・職員が個別に活用している教材や活動プログラムをお互いに知り合う機会を設けていく。 ・打ち合わせを効率的に行い、情報共有していく。 ・当事業所でカバーできる内容を精査し、全職員で検討しながら進めていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	7	0		
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0		
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		
	16	個別支援計画には、児童発達支援ガイドライン・放課後等デイサービスガイドラインの「児童発達支援・放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで相談しながら行っているか。	7	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0		
	19	支援開始前には職員間で打合せや情報共有を行い、チームで連携して支援を行っているか。	6	1		
	20	支援終了後には、職員間で支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0		
	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		
	22	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
	23	放課後等デイサービスでは、ガイドラインの「4つの基本活動」（日常生活の充実と自立支援のための活動・多様な遊びや体験活動・地域交流の活動・こどもが主体的に参画できる活動）を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1		
	24	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0		

関係機関や保護者との連携	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	・関係機関との連携会議には積極的に参加している。 ・必要に応じて他機関と連携を取れる体制にある。 ・学校連携の機会が増えた。 ・法人内研修を受けている。 ・全職員に対して他機関における研修機会等の情報発信をしている。	・必要性に応じて実施する。 ・保護者に福祉制度や社会資源についての情報発信をしながら、他資源と協働してニーズを満たすように考えていくとともに、全職員が同じ意識を持つようにしていく。
	26	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		
	27	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0		
	28	必要に応じて、就学時の移行の際には小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0		
	29	必要に応じて、就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0		
	30	必要に応じて、学校を卒業し放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	0		
	31	地域の児童発達支援センターなどとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2		
	32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0		
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1		

保護者への説明等	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	・契約時や変更時には、丁寧な説明を心かけている。 ・個別支援計画作成手順に則って適正に保護者や利用者の意見を考慮し、同意を得ている。 ・毎回保護者が療育を観察し、担当からもフィードバックをしている。 ・保護者からの相談については別途相談日を設けて対応している。 ・夏休み期間中に、保護者の関心が高い進路についての学習会を複数回実施した。 ・子育て通信や、OT・ST通信を毎月発行し、配布するとともに掲示している。 ・個人情報の取り扱いについては十分留意している。	・保護者や利用者から運営規定、支援プログラム、利用者負担、個別支援計画等について質問があった際には、担当止まりにせず全職員で共有し、対応していく。 ・今後も保護者や利用者からの相談を担当止まりにせず、事業所全体で受け止めていく。 ・保護者座談会を年間計画に位置づけ、毎月平日と週休日に1回ずつ、保護者の関心の高いテーマを扱っていく。 ・ホームページや紙媒体、LINEなどを活用して、さらに情報発信をしていく。 ・ゲストアカウント対応をする。
	35	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	36	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	7	0		
	37	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	38	保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1		
	39	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	40	定期的に通信等を発行することや、HP等を活用することにより、活動概要等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0		
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1		
	42	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
非常時等の対応	43	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	・年度初めにアセスメントシートの更新を行い、利用者情報を得ている。 ・服薬やてんかん発作、食物アレルギーなど、活動に関わる情報は確認しつつ進めている。 ・定期枠利用なので体験者は限られるが、利用者保護者が参加しての避難訓練を行なっている。 ・ヒヤリハットを共有し、再発防止策を検討している。 ・虐待防止、身体拘束についての研修を行うとともに、必要な利用者については保護者に身体拘束等に関する同意書をいただき、個別支援計画に記載している。研修を実施している。	・各種マニュアルについては、目につきやすい場所に置くようにする。 ・訓練は実施しているが、体験者が限られるため、情報が全利用者に行き渡るように情報提供をしていく。 ・安全計画に基づき、事故予防に努めている。
	44	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		
	45	事前に、服薬やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0		
	46	必要に応じて、食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0		
	47	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
	48	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	49	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0		
	50	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
	51	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	7	0		

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	個別療育センターココスマイル			
○保護者評価実施期間	2025年2月10日 ～ 2025年3月11日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2025年2月10日 ～ 2025年3月11日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	構造化された過ごしやすい療育の環境となっています。	毎回の療育ごとにお子様の特性に応じた療育室内の構造を設定しています。	お子様の特性に応じて、椅子・机の配置や視覚スケジュール教材等の見直しを行い、より過ごしやすい環境づくりに努めていきます。
2	心理・リハビリテーション等の専門職を配置し、充実した職員体制となっています。	専門性を活かし、心理検査等のアセスメントに基づいた療育を実施しています。	より専門性を高めるための研修や、事例検討等を行っています。
3	ご家族様に対し、毎回の療育でお子さまへの関わり方などの相談援助を行っています。	ご家族様に対し、タブレットでの視聴など、療育への参加の機会を提供した上で、療育の最後の時間に毎回ご家族へフィードバックを行っています。	療育の時間外での相談援助（家族支援）や、保護者様向け座談会の開催により、いっそう家族支援を充実させていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家族が参加できる研修会や情報提供の機会等が多くはありませんでした。	ご家族支援に関する座談会の開催案内が1カ月前から順次、紙媒体でのご連絡となったため、参加したくても既に予定が入っていて予定の調整が難しいことから参加できなかった方もおられました。	来年度は保護者学習会＜座談会＞を毎月実施することで、開催頻度を増やします。また、年度初めに年間のスケジュールをご利用者様に提示し、毎月のご案内や申込方法についてもLINEなどを活用して、スムーズな情報のやりとりを工夫していきます。
2	療育の担当職員が変更になった際に、お子様が新しい職員に慣れるのに時間がかかります。	十分に引継ぎを行っていますが、環境変化に敏感なお子様の場合は不安が高まり、安定した活動ができるようになるまでに時間がかかります。	事前の口頭・書面での引継ぎに加え、慣れるまでは新・旧の職員が一緒に支援に入るなど、環境変化に敏感なお子様安心して通い続けられるよう工夫をしていきます。
3	避難訓練を実施していますが、参加されていないご利用者様へは情報が行き届いていません。	契約時の説明に加え、掲示板への張り出しやホームページへの掲載により避難訓練の様子や災害時の対応の周知を行っていますが、ご利用者様全員の目には止まりにくいと思われます。	LINE等のツールを活用し、ご利用者様全員に避難訓練の情報が伝わるよう工夫をしていきます。